

ふるさと創造会議について

一般質問



松尾 幸宏 議員
(自民の風・誠真会)

問 西村市長のマニフェストに、「まちづくり条例を制定し、市民の声が反映される市政へ、また地域ふるさと創造会議をつくり、地域からまちづくりを」とあり、もう既にふるさと創造会議は一步踏み出しているが、なぜいま加西市にふるさと創造会議が必要なのか、又組織、目標、運営方法等、全体像をあらためてお聞きする。

答 現在の加西市の状況は、兵庫県内陸部の中山間地域に比べ

と、高齢化や少子化、過疎化の進行は緩やかですが、今後高齢化率は確実に上昇します。そのような中、安全・安心な地域を維持するためには、ともに暮らす人々がつながりを持ち続け、地域の人材を最大限に活用し、魅力ある地域を実現していくために、ふるさと創造会議が必要と考えています。

そして、市の財政状況の改善が見られる今こそ、地域再生活活性化に適した時期であります。組織は基本的には小学校区単位で設置し、既存のまちづくり協議会のように、地域内の各自治会から満遍なく住民参加をいただき、住民の意思決定をする機関と、事業を実施する執行機関を設置することで、円滑に進められると考えています。

創造会議では、5つの発展段階

を想定しています。まず1番目は、地域を十分に見つめ直す段階の円卓会議です。取り組むべき課題や目標を住民の間で意識共有できたら、2番目に組織づくりをします。会議の規約や人員配置構想を決定し、設立となります。3番目には解決すべき地域課題などへの取り組み、4番目に地域内で市の管理する施設等を持続できる事業などの検討をしていただくことで、財源確保と基盤の強化が図られると考えます。

そして最後に、観光事業や特産品製造など、地域の持つ条件を生かし、採算性が確保できる事業など、自主独立した経営が目指せれば、将来にわたり安定した地域活性化が続けられると考えます。

教育問題について

一般質問



黒田 秀一 議員
(自民の風・誠真会)

問 村八分の案件に関して、就任前のこととする議員もいますが、教育長は平成23年5月から就任前まで県委託事業のスクールガードリーダーとして市内で1名選任され、学校、教育委員会とのパイプ役として活躍されており、単なる一市民ではなく、また、このような経験等から教育長に人選されたのではないのでしょうか。市長は控訴審の結果を受けて責任をとると言われましたが、どのような責任の取り方をされるのかお尋ねします。また、任命責任者

として市長はみずからが出向いてA氏に陳謝すべきではないのでしょうか。

答 (市長)選任過程において、地域住民間のトラブルについては解決の方向で努められており、係争事案に発展するとは考えておらず、ご承認いただきました議員各位の多くの方も、ご同様の認識であったのではないのでしょうか。任命した責任については、免れるものではなく、市民の代表である議員各位の議論やその後の民意をくみ取りながら、最終的に市長としての任命責任のとり方を判断してまいりたいと考えております。現時点での私が考えております民意は、続けることで責任をとるということです。

また、今後は同案件について適切

妥当なご審議とご決定をいただくために、事前審査にならず執行者の任命権を阻害しない程度で、事前に意見交換する場をつくることを考えています。

問 任命責任求める声が強まれば、責任をとって辞め、市長選に再び立候補して、という部分についての解釈をお聞きしたい。

答 (市長)この議会で議員の皆さんの活発なご意見をいただき、責任をとってやめるべきであるという意見が多数であれば、辞職して、また選挙に出、ふるさと創造会議をつくろうということも含めて、ぜひ頑張っておく能力を出し、頑張っていきたいという思いです。